神奈川新聞　2009年（平成21年）2月10日　火曜日

高い技術力証明

〝オンリーワン〟に7製品

「川崎ものづくりブランド」

難加工形状プレス技術で加工した部材を示すＪＫＢの平井和夫社長（左）と平井圭一郎副社長　＝高津区

川崎市内の中小製造業が創意工夫で生み出した工業製品を〝オンリーワン製品〟として認定する二〇〇八年度「川崎ものづくりブランド」に七件が選ばれた。いずれの企業も高い技術力が経営基盤をしっかりと支えており、不況の中、積極的に活路を見いだしている。（三木　崇）

ものづくりブランドは、市と川崎商工会議所などでつくる推進協議会が〇四年度から実施。これまでに二十九製品が選ばれている。

プレス技術で複雑な形状に加工した部材が認定されたＪＫＢ（高津区下作延）。従来の概念にとらわれない方法で超微細加工も手掛け、高速で大量に高精度な部品製造が可能な「順送プレス」で製造を行う。

直径八・五ミリの範囲内に百二十一個の穴を開けることにプレス加工で成功。従来の加工法に比べて十分の一の低コスト化を実現した。平井圭一郎副社長（27）は「他社が製品化できない部品づくりに積極的に挑戦することで信頼を勝ち得てきた。製品は世界中の携帯電話やパソコンなど電子機器に使われています」。父親で米スタンフォード大学大学院修了の平井和夫社長（63）は「コンピューターを使った生産管理システムを独自開発し、世界に先駆けて導入しました」と、同社の成長の秘訣を明かす。

カメラを支えながら自走する「ロボットペデスタル」を紹介する昭特製作所の長谷川部長（右）　＝高津区

昭特製作所（同区二子）は、テレビ局向けのカメラサポート機器で国内トップメーカー。スタジオ内を自走してカメラアングルを決めるカメラ支持機材「ロボットペデスタル」が認定された。

品質保証部の長谷川正雄部長は「自社で培ってきた精密部品製造技術とエレクトロニクス技術の集大成」とＰＲする。海外をはじめ、テレビショッピングなど二十四時間放映の放送局から受注を期待している。

そのほかの認定製品、会社名は次の通り。

▽超小型ＤＣモーターコントローラー（イクシスリサーチ＝幸区）▽誘電率測定装置（エーイーティー＝麻生区）▽ドライアイスブラスト洗浄機（協同インターナショナル＝宮前区）▽ドライブレコーダー「クピレ」（東信電気＝麻生区）▽「メガニッケル」めっきで加工した部材（ブラザー＝川崎区）

認定式は十二日午後三時から、川崎商議所講堂で開かれる。「第七回渋沢栄一賞」を受賞した日本理化学工業（高津区）の大山泰弘会長が基調講演する。入場無料。